『堺市全図』

年代不詳　河合達五郎（編集兼印刷発行人）　70 ㎝×50 ㎝　関西大学図書館蔵

他に「醸造発売元　小田庄三郎」の名前がある以外、詳細不明。小田庄三郎は『堺市鳥瞰図』にも名前が出る「小田醤油」の店主で、地図上の「小田庄商店」には赤い斜線が引かれ矢印が向けられている。「小田庄商店」は、現在の堺市立女性センターの西側あたりだろう。

「堺中学校」（現三国ヶ丘高校）、金岡に「騎兵第四連隊」とあるので、明らかに戦前の地図である。地名を見ると、昭和 14 年に設置された北清水町、南清水町、砂道町などがあるが、堺市街東隣が「五箇庄村」、「金岡村」となっている。「宇治川電気」は昭和 17 年に解散するので、戦争末期の地図ではない。それぞれ、昭和 13 年に堺市に編入されるので、昭和 14 年頃の市内の町名変更に対応するように、昭和 13 年頃に小田庄商店が、得意先に配布した地図ではないかと推定する。名所旧跡にも印がついているので、堺市内だけではなく、堺市外の得意先にも配ったのであろう。もっと決定的な証拠が地図上に記載されている可能性もあるので、お気づきの方は、ぜひご教示いただきたい。

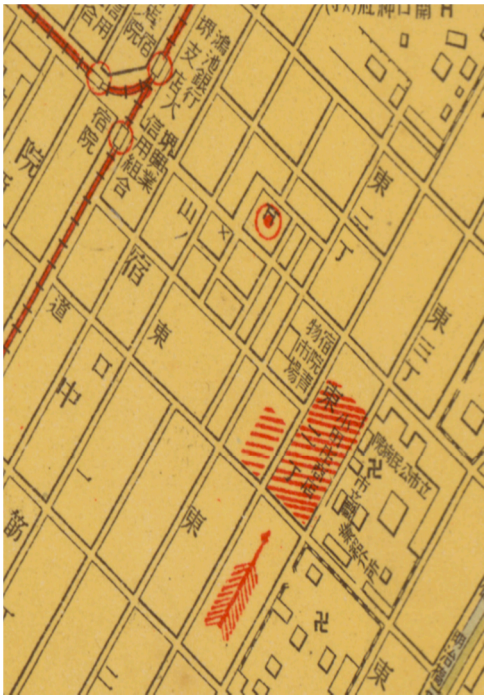
昭和 10 年の『堺市鳥瞰図』と比べると同じ会社名、商店名を見る。戦災に遭う前の堺市の姿を丁寧に描き出している貴重な地図である。

「堺商業学校」の北が「萱田池」、南側が「北今池」と記されている。その周辺から東側は点線区画で、どうもこれは都市計画地域らしい。興味深いのは、阪和線堺市駅南西側の区画が整然と整理されている。一方、南海高野線浅香山駅から高須神社北側の梅鉢鉄工場まで引き込み線が描かれて、『堺市鳥瞰図』で説明したように、梅鉢への資材運搬、製造した車両の運搬に使用された。このあたりは戦災に遭っていないこともあり、廃線後の区画は現在もなお残っており、浅香山駅から北へ向かうと大きく道が曲がり、30 号線へつながる。綾ノ町の阪堺線の軌道も現在と同じで、カーブを描いている。大日本セルロイドの敷地には工場や倉庫が描かれている。さて、どれが現存する赤煉瓦館であろうか。

堺港あたりに目をやると、「税関出張場」、「堺市入津料徴収所」、「水上警察派出所」と記載されている。戦前の堺の工場は、アジアや北米、南米に商品を輸出していたという。

この地図のおもしろさは、旧環濠の橋の名前がすべて記載されている点だ。多くの橋の名前が忘れ去られているだろうし、高速道路が通り、川は道路となって、橋があったことさえわからない場所も多いだろう。

この地図は、デジタル化するとともに、紙でのリプリント版を作成し、地図を片手に、旧環濠にかかった橋の跡地巡りをする、北側の被災しなかった地域の区画を確認する、など、今の堺市と戦前の堺市をつなぐ地図としての活用が期待できる。



・小田庄商店位置

・堺市内の鉄道５線と宿院から大濱への路線が描かれる